

ベトナム新興自動車メーカー VINFAST 一般調査報告書

2023年10月下旬、愛知県からベトナムへ進出された企業の方々との意見交換会の開催のため、ベトナムへ出張してきました。本出張に際して、ベトナムの政府関係機関や現地に進出されている日系企業や工業団地を訪問したとともに、ベトナムの新興自動車メーカーであるVINFASTを訪問する機会に恵まれました。本レポートではこのVINFASTの概要を解説するとともに、同社の最近の動向について報告します。なお、レポートの最後には、11月下旬にバンコクで開催されたタイ最大規模の工作機械・金属加工技術の展示会METALEXの視察の様子と、出展された愛知県内企業3社のインタビューを掲載します。

1 ベトナム自動車産業及びVinグループの概要について

(1) ベトナム自動車産業の歴史・現状について

VINFASTについて述べる前に、まずベトナム自動車産業の歴史と現状について確認していきましょう。詳細については、2023年9月10日付けレポート「ベトナム自動車市場の動向について」をご確認いただければと思いますので、ここではざっくりと概要を述べるに留めたいと思います。

①ベトナム自動車産業の歴史概説

ベトナムは戦争の歴史が長かったため、1990年代に入るまでは外資導入や産業の育成がほとんど行われてきませんでした。そのため、ベトナムでは近年まで、自動車は基本的に輸入によって賄われており、例えばトヨタやホンダなどの日系自動車メーカーの現地生産も、タイでは1960年代から行われてきましたが、ベトナムでは1995年以降となっています。なお、ベトナムローカルの完成車メーカーについても、Mekong Auto社やVietnam Motors社などの生産が1990年代から始まっていますので、ベトナム自動車産業はタイから遅れることおよそ30年、1990年代から始まったといえます。

②ベトナム自動車産業の現状概説

ベトナムの自動車生産台数は年間およそ20万台強、販売台数はおよそ40万台となっています(図1,2)。ASEANの自動車産業をリードするタイやインドネシアと比べるとかなり少ない数字となっていますが、今後の国民所得向上によってモータリゼーションが進むと、人口1億人の巨大市場となり得る可能性を秘めているといえます。自動車の販売シェアは、日系が約65%、韓国(主に起亜)が約18%、米国(主にFORD)が約8%、ベトナム約7%となっており、日系メーカーが優勢となっていますが、タイでのシェア85%やインドネシアでのシェア92%と比べると少なくなっている点が特徴です(ベトナム自動車工業会(VAMA)発表資料によるものであり、VINFASTは含まず)。

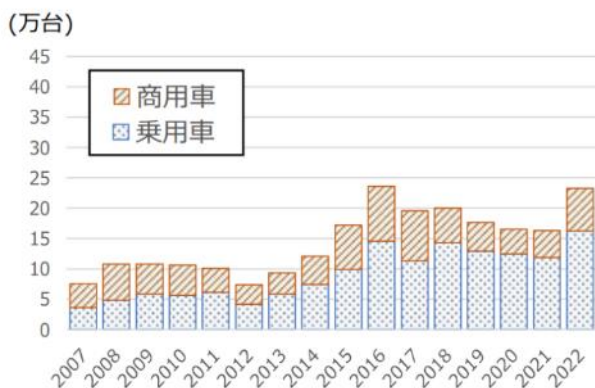


図1 ベトナムの自動車生産台数(出所:アセアン自動車連盟(AAF)公表データから作成)

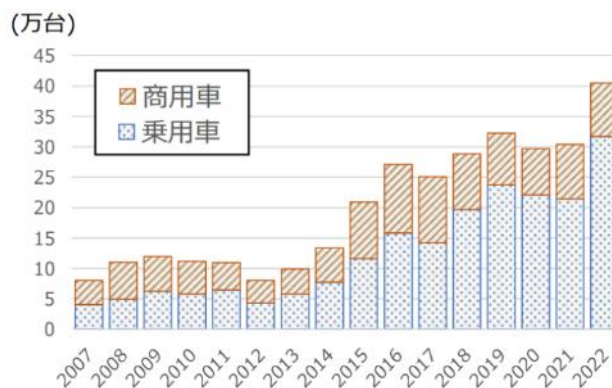


図2 ベトナムの自動車販売台数(出所:アセアン自動車連盟(AAF)公表データから作成)

(2) Vinグループについて

VINFASTはベトナムの新興財閥Vinグループの一員として2017年に設立されたため、まずはVinグループについて簡単に述べていきたいと思います。

Vinグループはベトナムで最も大きな財閥の一つであり、その事業分野は非常に多岐に渡ります。不動産のVINHOMES、自動車のVINFAST、小売のVINCOM RETAIL、医療のVINMEC、果ては教育のVINSCHOOLと、数多くの分野で事業を営んでいます。Vinグループのグループ会社について表1にまとめました(表1)。こうしてみると、進出していない分野はないのではないかと考えるほど多分野となっています。

企業名	概要	企業名	概要
 VINHOMES	ベトナム最大の不動産デベロッパーであり、東南アジア2番目の高さを誇るランドマーク81を擁するホーチミン市の「Vinhomes Central Park」などが有名。	 VINUNIVERSITY	2018年に設立された非営利の私立大学。歴史学、経済学、法学等の文系分野から化学、数学、生物、農学、物理学等の理系分野までカバーしている。
 VINFAST	2017年設立のVinグループの自動車製造企業。参入後わずか2年で生産を開始した。当初は内燃機関車も製造していたが、現在はバッテリー式電気自動車(BEV)の生産に特化。2023年8月には米国NASDAQへ上場、一時時価総額1,900億USDをつけ、注目を集めた。	 VINSCHOOL	2013年設立。幼稚園から高校まで12年間の教育システムを提供する学校。イギリスのCIS(Council of International Schools)から3か所6学校についてCISメンバーと認定されている(CISメンバーと認定されるのは世界734の学校と622の大学/高校でベトナムでは17校のみ)。
 VINBUS	ベトナム初のスマート電気バス会社で2019年に設立、2021年4月から運行開始している。路線バスと同様の低廉な均一運賃(7,000-8000TND=約40円)で市民の足を提供する。	 VinAi	VinグループのAI研究開発企業。AIやAIを活用した製品の研究開発を行う。直近では米国のOpenAIが開発したChatGPTを参考にして、PhoGPTを開発した。
 VINBRAIN	人工知能医療ソフトウェア開発を行う。心臓や肺、骨に関する21の疾患指標を検出できる人工知能を活用したプラットフォームDrAidを開発。2023年1月には米国Microsoft社と提携。	 VINBIGDATA	音声言語処理などを主要研究テーマとして2021年設立。同社が開発した仮想アシスタントViViがVinグループで採用され、VINFASTのBEVに搭載されている。

 VINMEC	<p>2012年に設立、同社の Vinmec International Hospital を始め、富裕層向けの医療サービスを提供する。7つの国際病院、2つの国際クリニック、幹細胞・遺伝子研究所を擁する。</p>	 VINPEARL	<p>Vin グループのホテル・リゾート・エンタメ部門でベトナムを代表する高級リゾートブランド。ベトナム各地にリゾート施設を所有しており、大型統合リゾート「Vinpearl Land」が有名。</p>
 VINCOM RETAIL	<p>主に不動産開発、特に小売不動産の開発・運営管理を行う。Vincom Center や Vincom Mega Mall、Vincom Plaza などの巨大ショッピングモールが有名。</p>	 VINIF	<p>Vingroup Innovation Foundation の頭文字を取ったファンド。主に科学技術分野における研究機関等の若い科学者を支援する目的で設立された。</p>
 VinCSS	<p>サイバーセキュリティサービスの研究開発企業。2023年10月には、同社のパスワードレス認証の優位性から米国 Frost & Sullivan 社からアジア太平洋地域新製品イノベーション賞を授与された。</p>	 quỹ vì tương lai xanh	<p>2023年7月に設立された非営利団体で英語名は For Green Future 基金。持続可能なグリーン開発を実現するための実践的なプロジェクトとアクションプログラムを実施する。</p>
 VinHMS	<p>顧客の業務最適化を目的とした最先端技術製品に特化したソフトウェア開発会社。Expedia、Traveloka、Agoda、TripAdvisor、Google、AWS の戦略的パートナーとなっている。</p>	 VINFUTURE FOUNDATION	<p>Vin グループ創業者夫妻からの寄付によって設立された非営利団体。主な活動は、科学技術賞である Vin Future Prize の授与。</p>
 VinES	<p>2021年設立。電気自動車、エネルギー貯蔵システム、その他の商業用途向けの高品質リチウムイオン電池の研究・開発・生産を行う。2023年10月に VINFAST が同社の買収を発表、バッテリーコストの圧縮を目指す。</p>	 QUỸ THIỆN TÂM	<p>2006年に設立された非営利団体で、英語名は Kind Heart 基金。貧困地域の経済発展や、自然災害被災者支援、貧困学生支援などの慈善・人道的な取組を中心に支援している。</p>

表 1 Vin グループの主なグループ企業一覧

Vin グループの創業者である Pham Nhat Vuong 氏はモスクワに留学後、1993年にウクライナで創業したインスタント食品加工会社「テクノコム(Technocom)」で成功し財を成した後、2000年にベトナムへ帰国、Vin グループの核ブランドとなる VINPEARL (リゾートホテルなどの観光業)と VINCOM (デパートなどの不動産業)を立ち上げました。その後 2012年には VINPEARL と VINCOM が統合し Vingroup という新たな名称の企業として事業を開始することとなり、同年 Vinmec ブランドを導入、Vinmec International Hospital を開業しました。なお、2009年には源流企業であるテクノコムはネスレに売却され、ビジネスの本拠は完全にベトナムに移されています。

現在、Vin グループはベトナムで同社のサービス・製品を利用していない人はいないと言っていいほど、大きな存在となっており、創業者の Vuong 氏はベトナム最大の富豪とされています。そんな同社の主力事業は最初期から続いている不動産事業であり、グループ全体のおよそ 2/3 の売上を占めているといわれています。この不動産事業の稼ぎを基に、満を持して自動車製造業へ参入するために設立した企業が VINFAST です。なお、多角化を続けてきた Vin グループですが、2019年にはコンビニエンスストアチェーンの VinMart+とスーパーマーケットの Vinmart をベトナム食品大手のマサングループへ売却しており、これは一説によると、VINFAST の設備投資に巨額の費用がかかるとともに、同時期に参入したスマートフォン事業へ

の投資も嵩んだため、赤字となっていた小売事業の売却に踏み切ったのではないかとされています。

しかし、こうして投資を重ねたスマートフォン事業(Vinsmart)からは、2021年に中止・撤退しています。スマートフォン事業はVINFAST設立と同じ2017年に開始したため、わずか4年での撤退であり、勝機がないと判断した分野からは迅速に撤退するという意思決定の早さも、同社の強みと言えるのではないのでしょうか。

また、近年は表1にもあるようなAIやビッグデータなど最先端の分野にも進出しているとともに、いくつかの基金を運営しており、社会貢献や次世代の科学研究に対して資金援助を行っていることから、企業の社会的責任も積極的に果たしているといえます。また、VinグループはVINBIGDATAなどを通じて政府の第四次産業革命推進への後押しをするなど、政府との関係も良好である点も見逃せません。こうした全方位をカバーする企業戦略が今日のVinグループの成長を後押ししているのかもしれない。

2 VINFAST について

それではここからは本レポートの本題であるVINFASTについて解説していきたいと思います。

(1) VINFAST の歴史・概要

前章でも述べたとおり、VINFASTは2017年にVinグループの一員の自動車完成車メーカーとして設立されました。現在では連結総収益5億2,500万USD(2022年12月31日時点)、従業員数14,505名(2023年3月31日時点)の巨大企業に成長しています。まだ歴史の浅い企業ではありますが、大まかな歴史を整理すると以下の表のようになります(表2)。

年	主なできごと	
2017		<ul style="list-style-type: none"> ・VINFAST 設立。ベトナムハイフォン市のディンブー・カットハイ経済区に、15億USDを投じて自動車製造工場の建設を開始。 ・親会社のVinグループはこれまで自動車製造の経験は全くなく、VINFASTの成功を疑う声が多数聞かれた。
2018		<ul style="list-style-type: none"> ・元GM副会長ジェームズ・デルーカ氏をCEOに任命(9月)。 ・パリモーターショーで自動車のデザインプロトタイプを発表。 ・電動スクーターの第1号モデル「ビンファスト・クララ」を11月17日に発売すると発表。価格はリチウムイオン電池タイプが5,700VND、鉛蓄電池タイプが3,400万VND。
2019		<ul style="list-style-type: none"> ・ハイフォン工場が稼働開始。当初はガソリン車の製造工場として稼働(6月)。小型車「Fadil」が6月から納車、「Lux SA2.0」、「LUX A2.0」が7月から納車された。 ・元Vin コマース CEO のタイ・ティ・タイン・ハイ氏をCEOに任命(なお、元CEOのデルーカ氏はVinグループの副CEOとなっている)(7月)。
2020		<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアメルボルンに生産開発拠点を開設(6月)。 ・高級SUV「President」を発売開始、価格は46億VND(9月)。 ・2020年は、自動車に関しては内燃機関車の生産に集中。 ・電動バイク「Impes」、「Ludo」を発売開始。
2021		<ul style="list-style-type: none"> ・電動スクーター「Theon」、「Feliz」を発売開始(1月)。 ・VINFAST初のBEV「VF e34」を発売開始、同年12月から納車開始(3月)。 ・欧米自動車大手ステランティス傘下のオペルの元CEOであるミハエル・ローシェラー氏をCEOに任命(7月)。

2022		<ul style="list-style-type: none"> ・年内でガソリン車の生産を中心し、EV の生産に特化する方針を発表(1 月)。 ・米国ノースカロライナ州に 20 億 USD の EV 工場を建設することを発表、IPO 申請(6 月)。 ・ガソリン車の新規注文受付を停止(7 月)。 ・ドイツ、フランス、オランダに支社を置くことを発表(10 月)。 ・現 Vin グループ副会長のレ・ティ・トゥ・トゥイ氏が CEO に就任。
2023		<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車専用タクシー会社 GSM 社と連携し、VINFAST の BEV を使用したタクシーサービス開始(4 月)。 ・米国 NASDAQ へ上場、上場初日(8/15)の終値は 37.06USD で時価総額 850 億 USD。8/28 には 82.35USD をつけ時価総額 1,900 億 USD まで膨れ上がった。これは Tesla、トヨタ自動車に次ぐ世界 3 位。

表 2 VINFAST の歴史(出所:VINFAST Corporate Presentation より)

なお、現在 VINFAST はガソリン車を生産しておらず、BEV のラインナップのみとなっています(表 3)。

車種の写真	概要
 <p style="text-align: center;">VF5</p>	<p>【概要】コンパクト SUV A セグメント SUV ベトナムのみで販売</p> <p>【価格】19,400USD(バッテリーサブスクリプション) 22,800USD(バッテリー購入)</p> <p>【航続距離】186 マイル WLTP Range</p> <p>【容量】100kW</p>
 <p style="text-align: center;">VF6</p>	<p>【概要】ファミリー SUV B セグメント SUV 米国、カナダ、欧州、ベトナムで販売</p> <p>【価格】未定</p> <p>【航続距離】248 マイル WLTP Range</p> <p>【容量】130kW</p>
 <p style="text-align: center;">VF7</p>	<p>【概要】スポーツ SUV C セグメント SUV 米国、カナダ、欧州、ベトナムで販売</p> <p>【価格】未定</p> <p>【航続距離】280 マイル WLTP Range</p> <p>【容量】150kW</p>
 <p style="text-align: center;">VF8</p>	<p>【概要】プレミアムコンパクト SUV D セグメント SUV 米国、カナダ、欧州、ベトナムで販売</p> <p>【価格】46,000USD(バッテリー購入)</p> <p>【航続距離】293 マイル WLTP Enhanced Range 264 マイル certified EPA Enhanced Range</p> <p>【容量】260kW</p>
 <p style="text-align: center;">VF9</p>	<p>【概要】ハイエンドフルサイズ SUV E セグメント SUV 米国、カナダ、欧州、ベトナムで販売</p> <p>【価格】83,000USD(バッテリー購入)</p> <p>【航続距離】369 マイル WLTP Range 264 マイル certified EPA</p> <p>【容量】300kW</p>

表 3 VINFAST の現在の主な生産ラインナップ

表3は2022年以降に発表されたSUV5車種です。BEVにしてはそれほど高価格ではなく、フェラーリ「365GT4BB」のデザインなどを手掛けたイタリアのピニンファリーナのデザインを取り入れたことから市場に好意的に受け止められています。また、BMWとも戦略提携を結んでおり、技術的にも安定しているという印象を受けます。NASDAQ 上場時に非常に高い株価をつけた一つの理由には、こうした既存の企業との連携による安定感も背景もあったと考えられます。

ただし、財務状況はあまりよくはありません。Vinグループが背後にいたものの、完成車メーカーは多額の設備投資が必要となりますし、車体の研究開発・製造、バッテリーなど基幹部品の開発など面倒を見なければいけない分野も非常に広がっています。VINFASTは創業以来赤字が続いており、Vinグループの不動産業の儲けをつぎ込んでいたような状況ですが、2022年はベトナムの不動産不況により、Vinグループ自身もかなり痛手を被ったようです。2023年1-9月期のVINFASTの連結決算は、最終損益が41兆6,598億VND(約2,540億円)の赤字でした。しかしながら、同じEVメーカーである米国Teslaも2008年の創業以来、初めて黒字になったのが2020年と考えると、今は辛抱のときなのかもしれません。

(2) VINFASTはなぜ注目されているのか

なぜVINFASTは今注目を集めているのでしょうか。簡単ではありますが、以下のような理由が挙げられると考えられます。

①スピード感

歴史を振り返ってみて、やはりまず注目すべきはそのスピード感です。まず、2017年にハイフォン工場の建設を開始し、わずか2年後の2019年には実際に自動車を生産・納車してしまったという点はやはりすごい一言だと思います(ちなみに2018年のパリモーターショーではデザインプロトタイプを発表しており、こちらも驚異的なスピードかと思えます)。通常自動車を製造し納車するには4年はかかるといわれているので、その半分の時間で実行したことになります。この他に、撤退のスピードも早く、例えば前述の小売事業のマサングループへの売却、スマホやテレビなどの家電事業からの撤退が挙げられます。

②大胆な戦略

次にVinグループの豊富な資金を背景とした大胆な戦略設計です。VINFASTのハイフォン工場の生産能力は年間25万台、ベトナムの年間の自動車販売台数は年間およそ40万台ですので、国内市場を考えると明らかに過剰投資です。通常であれば、まずは小規模に初めて、国内である程度実績を積んでから海外進出と考えるところですが、VINFASTは始めから海外展開を視野に入れており、それも踏まえた工場をいきなり建設したということになります。こうした戦略がとれるのも親会社のVinグループの豊富な資金力があってこそ、ということになります。確かに過剰な生産能力により、VINFASTは欧州などへの展開を急いでいるという話もありますが、実際にニーズが生まれれば(そして米国NASDAQでの評価を見れば)あながち間違っていなかったといえるときが来るかもしれません。

③商品・価格の優位性

また、前述のように、同社製品のデザインはイタリアのピニンファリーナのデザインを取り入れており、非常に洗練されたものとなっています。価格についても、バッテリーのサブスクリプションモデルの選択ができる車種もあり、導入費用を安く抑えており、この点も注目されているようです。

一方で、VINFASTのNASDAQ上場時の株価・その後の上昇は一時的なものだという見方も強く、実際最新(12/8時点)の株価は6.79USDとなっています。Seizo Trendの2023年9月14日付けの記事によれば、そもそもVINFASTの上場はSPAC(特別買収目的会社)を通じて上場したもので、その株価は投機的

な性質が極めて強く、極めて不安定であると米国メディアである CNBC が指摘しています。CNBC と同様、米国のメディアの多くは、VINFAST の売り上げ規模や財務状況からすると、株価は大きく過大評価されていたという見方が大半です。この辺りも含め、今後の VINFAST の評価を注視していきたいと思います。

3 VINFAST の直近の動向について

最後に VINFAST の今年に入ってから話題を確認していきたいと思います。

(1) NASDAQ への上場

前述したとおり、やはり今年のニュースとして最も大きなものはこれではないでしょうか。繰り返しになりますが、VINFAST は米国 NASDAQ へ上場、上場初日(8/15)の終値は 37.06USD で時価総額 850 億 USD をつけました。また、その 2 週間後の 8/28 には 82.35USD をつけ時価総額 1,900 億 USD まで膨れ上がりました。これはもちろん米国株式市場において最大規模のベトナム企業となり、米国に VINFAST の名前を知らしめることとなりました。なお、12/8 現在の株価は 6.79USD、時価総額は 183.78 億 USD と最高値だった 8/28 の 1/10 以下となっています。

(2) 他国への展開

2023 年 6 月 30 日には、ドイツ・ベルリンに同国で 3 つ目となる販売店をオープンしました。VINFAST は 6/30 時点で、世界中に 122 の EV ショールーム、245 の電動スクーターショールーム・整備場(作業場)を展開しています。

また、2023 年 7 月 28 日にはノースカロライナ州で 1,800ha の EV 工場の起工式を行いました。なお、この工場は第1段階で年間 15 万台の生産能力をもっており、2025 年に稼働するとのことです。

さらに、9 月にはインドネシア工場の新設、10 月にはインド工場の新設と相次いでアジアへの展開も発表しています。

(3) その他

10 月には Vin グループのバッテリー製造会社 VinES を買収しました。これにより EV の基幹部品であるバッテリーの共有確保や、研究開発の推進、バッテリー製造コストを最大 7% 圧縮することを見込んでいます。

11 月、表 2 の 2023 年で紹介したタクシー事業について、ラオスのビエンチャンでも事業を開始しました。VF5 Plus を使用し、1000 台を運行する見込みです。今後、同じラオス国内のルアンパバーン、サワンナケート、チャンパーサックにもサービスを拡大予定とのことです。

このように今年に入ってから VINFAST 関連のニュースは目白押しで、話題に事欠きません。当センターとしても引き続き VINFAST に注目し、今後のレポート等でも触れていきたいと思います。

4 METALEX2023 について

話題は変わりますが、11 月下旬に Reed Tradex Co., Ltd. が主催する「METALX2023」を視察しました。今回、出展企業 766 社、来場者数 98,686 人(昨年は約 86,000 人)という大盛況で、会場は時間帯によっては身動きが取れないほどの人の多さでした。今回の METALEX には日本企業全体で 175 社が出展しており、単独で出展されている企業も多くいらっしゃいましたが、ジェトロや東京都中小企業振興公社がある程度まとまったブースで出展し、そこに出席いただいた日本企業も多くいたため、それにより会場内で日本企業の存在感を演出できていたように思えます。なお、国別出展者数では中国企業が 213 社で、最大勢力となっていました。こうした工作機械・金属加工の分野でも、日本を上回る出展社数を送り出しているという実情を目の当たりにし、自動車の展示会に続き、中国の勢いを感じることもとなりました。



図3 METALEX 会場内(左上:会場入口 右上:会場内メイン通路は来場者でごった返し
 左下:会場端の通路にも多くの来場者 右下:ジェトロの JETRO PAVILION)
 (筆者撮影)

今回、会場にて愛知県の出展支援補助金である「アジア展開支援事業補助金」を活用し出展された、本多電子株式会社様(本社:愛知県豊橋市)、フルタ電機株式会社様(本社:愛知県名古屋市)、中日本炉工業株式会社様(本社:愛知県あま市)にお話を伺いましたので、インタビュー形式でご紹介いたします。

(1) 本多電子株式会社

Q:御社の事業内容を教えてください。

A:当社は、超音波技術を応用した様々な分野の製品を開発・製造しており、さらに、超音波のコア技術となる圧電セラミックスを独自開発し、目的に適した超音波振動子の自社製造をしています。

Q:今回の出展理由を教えてください。

A:METALEX はタイの製造業展示会としては最も大きな展示会であり、集客が見込めるためです。また、今年1月から海外での販売を開始した「超音波探傷映像装置(SAT)」を初めて展示会に出すこともあり、その第一歩としてふさわしい展示会と考えました。

Q:タイに駐在員事務所を設置した理由を教えてください。

A:タイは日系自動車メーカーが多く進出しており、当社が取り扱う超音波洗浄機のニーズが多いと考えたためです。また、取引できそうな見込みのある洗浄装置メーカーが既に立地していたというのも理由の一つです。

Q:今後のタイでの事業展開について教えてください。

A:将来的に、今回初めて展示した「超音波探傷映像装置(SAT)」のデモ機を置いて、今後の事業拡大への足掛かりとしたいと考えています。

Q:タイのビジネス環境として最も魅力的な点はどこでしょうか。

A:タイでは日本よりも横の繋がりが強く、情報が集まりやすい点が魅力的と考えます。

Copyright © 2023, Aichi Prefecture.
 All rights reserved.

Q: 今後タイ進出を考えている日系企業に対して、一言アドバイスをいただけますか。

A: 進出前にしっかりとタイ進出によるメリットを評価することが重要です。なぜタイでなければならないのか、という点をきちんと押さえておかないと、目的がブレてしまう危険性があります。とはいえ、来てみないと分からないことも多いため、例えば月の半分をタイで活動するような長期出張を1年間限定で行うなど、期限を切って活動することで、客観的に現地の状況を評価することが出来ると思います。



図4 本多電子株式会社ブース

(筆者撮影)

(2) フルタ電機株式会社

Q: 御社の事業内容を教えてください。

A: 当社は、流体技術を応用した霜害対策機器や施設園芸用・畜産用の送風機、水産養殖用機器、環境改善機器、半導体工場や送風機とそれらの応用製品を、設計開発から製造・販売・メンテナンスまでワンストップで提供しています。

Q: 今回の出展理由を教えてください。

A: 当社のエアブローを使用している愛知県の企業が多く進出しており、そのニーズに応えるためです。

Q: タイのビジネス環境として最も魅力的な点はどこでしょうか。

A: やはり日本と比べるとビジネスにスピード感がある点です。

また、設備投資意欲も旺盛で、今後の市場の成長も期待できます。

Q: タイ以外の国への進出について教えてください。

A: 例えば同じASEANでもタイとベトナムではニーズは全く異なります。そうしたニーズに応えていくためにもいずれどこかに拠点をつくりたいとは考えていますが、想定よりも人件費の上昇ペースが早いため、現時点では未定です。

Q: 今後のタイでの事業展開について教えてください。

A: 当社の製品は常に顧客の意見を聞きながら製品を作っております。その一環としてタイ市場に特化した製品をつくり、ローカライズをしっかりと進めていきたいと考えています。



図5 フルタ電機株式会社ブース

左: 東日本営業部木村部長代理

右: 古田社長

(筆者撮影)

(3) 中日本炉工業株式会社

Q: 御社の事業内容を教えてください。

A: 当社は、真空炉・電気炉・燃焼炉及び附帯機械設備、燃焼設備・制御装置の設計・製作・施工並びに金属熱処理及び CVD コーティングの受託加工を行っています。

Q: 今回の出展理由を教えてください。

A: タイは自動車や自動二輪車の企業が多く、それらの分野での熱処理需要を見込んで出展しました。日系企業に拡販し、可能であればタイローカル企業へもアプローチしたいと考えています。

Q: タイでの事業活動について教えてください。

A: 日本で取り扱っている全製品について対応可能ですが、タイに拠点がありませんので、輸出での対応となっています。

Q: タイのビジネス環境として最も魅力的な点はどこでしょうか。

A: 他の ASEAN 諸国と比較して裾野産業が広く、様々な分野にアプローチできる点だと思います。

Q: 今後のタイでの事業展開について教えてください。

A: Made in Japan にこだわったものづくりをしたいと考えているため、現地での生産拠点設置は検討しておらず、日本で生産して輸出するという戦略を崩すつもりはありません。

Q: タイ以外の国への進出について教えてください。

A: 北米や欧州、アフリカ、中東へは販売しておらず、やはり ASEAN 地域での販売が多いです。ニーズとしては中国が多く、その次がベトナムと考えており、そうしたニーズに対して粛々と販売していく予定です。



図6 中日本炉工業株式会社のブース
(筆者撮影)

5 あとがき

日本もそうかもしれませんが、タイではコロナ禍も完全に明けたとあってよい状況であり、以前のように日本からの出張者の方も多く訪れ、日々様々な方からお話を聞かせていただいています。愛知県バンコク産業情報センターでは、通常のご相談のほか、こうした出張者の皆様に対するタイの経済や自動車に関する概況のブリーフィングサービスも実施しておりますし、また、こういうタイ企業・在タイ日系企業を探している、タイでの CSR 活動としてこんなことを考えているので協力してもらえないか、などのご相談もお受けしております。こうしたご相談がございましたら是非ご連絡ください。

また、毎月発行しております本レポートにつきましても、もし取り上げてほしい話題がございましたらリクエストいただければ、可能な限りご対応させていただきたいと思っております。

こちらタイでは連日 30°C を超える気温のため、気温からクリスマスや年末感を感じることはありませんが、街中に流れるクリスマスソングを聴いたり、ショッピングモールに飾られているクリスマスツリーを見ると年の瀬を感じます。実はタイでは年末年始はそれほど重要ではなく、日本のような正月飾りや年末年始特番、初売り、初詣、といった行事が大々的に行われることはあまりないようです。それよりも 4 月の旧正月(ソングラーン)のほうが重要で、単なる連休という印象が強いです。これに倣って、私もこの年末年始はバンコクでゆっくり体を休めようと思っております。

本レポートを読んでくださっている皆様、本年は大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。

【参考文献】

ArayZ ONLINE「苦境が深まる VINFAST の一足跳び戦略」https://arayz.com/column/car_business_202305-2/
(参照 2023-12-09)

ArayZ ONLINE「アジアのコングロマリット「ASEAN シフトが進む昨今、新たな舞台での変革 ベトナム市場のポテンシャル」https://arayz.com/column/features_202306/(参照 2023-12-09)

ArayZ ONLINE「分岐点に立つベトナムの国民車メーカー・ビンファスト」https://arayz.com/column/car_business_202212/(参照 2023-12-09)

ArayZ ONLINE「アジアのコングロマリット【ベトナム編】Vingroup-VINFAST(ビンファスト)」<https://arayz.com/column/murc-202310/>(参照 2023-12-09)

ArayZ ONLINE「【ベトナム編】Vingroup - VinFast(ビンファスト)②」https://arayz.com/column/murc-202312/VINGROUP_General_introduction <https://vingroup.net/en/about>(参照 2023-12-09)

Digima「ベトナム最大の財閥企業ビンググループとは-ビンググループの歴史・事業展開・グループ企業を解説」<https://www.digima-japan.com/knowhow/vietnam/18930.php>(参照 2023-12-09)

VIETJO「ビン G 会長、ウクライナ人の帰国便を手配—第二の故郷に恩返し」<https://www.viet-jo.com/news/social/200324160137.html>(参照 2023-12-09)

VIETNAM lifestyle「「ビンググループ (Vin Group)」の紹介 | 不動産開発を中心としたベトナム最大の民間企業」<https://vietnam-lifestyle.com/developer-vingroup/>(参照 2023-12-09)

Vietnam groove「国際的な CIS 学校システムの基準に達する VINSCHOOL」<https://vietnamgroove.com.vn/ja/vinschool/>(参照 2023-12-09)

Merkmal「「バス利用者 = 低所得者」のイメージを大転換！ ベトナム初の電気バス会社「ビンバス」の巧みな企業戦略に迫る」<https://merkmal-biz.jp/post/26238>(参照 2023-12-09)

REUTERS Vincom Retail JSC <https://jp.reuters.com/markets/companies/VRE.HM/>(参照 2023-12-09)

VietBiz「ベトナムのビッグデータ分析と活用ビジネス | 概況と今後の展望」<https://vietbiz.jp/bigdata-vn/>(参照 2023-12-09)

U.S.FrontLine「MS、ベトナムで同社初の人工知能医療ソリューション協業に合意」<http://usfrontlinenews.com/?p=66459>(参照 2023-12-09)

VINGROUP “FOR GREEN FUTURE” FOUNDATION <https://vingroup.net/en/business/social-br-enterprise/2896/for-green-future-foundation>(参照 2023-12-09)

Global Newswire「ビン CSS (VinCSS): APAC のパスワードリーダー、フロスト・アンド・サリバンの賞 (Frost and Sullivan Award) を 2 回目受賞、シリーズ B 資金調達の準備中」[https://www.globenewswire.com/news-release/2023/10/09/2756417/0/ja/ビン_CSS_\(VinCSS\):_APAC_のパスワードリーダー、フロスト・アンド・サリバンの賞_\(Frost_and_Sullivan_Award\)_を_2_回目受賞、シリーズ_B_資金調達の準備中.html](https://www.globenewswire.com/news-release/2023/10/09/2756417/0/ja/ビン_CSS_(VinCSS):_APAC_のパスワードリーダー、フロスト・アンド・サリバンの賞_(Frost_and_Sullivan_Award)_を_2_回目受賞、シリーズ_B_資金調達の準備中.html)(参照 2023-12-09)

VINGROUP VINHMS <https://vingroup.net/en/business/technology-br-industry/2420/vinhms>(参照 2023-12-09)

Webull「バッテリー出力の向上: テスラのベトナムのライバル VINFAST がバッテリー企業 VinES を急襲」<https://www.webull.co.jp/news-detail/9524405959129088>(参照 2023-12-09)

NNA ASIA「ビンF、グループのバッテリー製造会社買収」<https://www.nna.jp/news/2577704>(参照 2023-12-09)

VOV WORLD「ビンファスト ベトナムの自動車産業に奇跡を起こす」https://vovworld.vn/ja-JP_ベトナム経済/ビンファスト-ベトナムの自動車産業に奇跡を起こす-1122959.vov(参照 2023-12-09)

NNA ASIA「ビンファスト、17 日に電動スクーター発売」<https://www.nna.jp/news/1832407>(参照 2023-12-09)

国際自動車ニュース「【ベトナム—その他】ビンファスト、新CEOにオペルの元CEOを任命」<https://www.auto-affairs.com/freearicles/101808-2021-07-28-04-43-19.html>(参照 2023-12-09)

VIETJO「ビンファスト、オーストラリアに拠点開設」<https://www.viet-jo.com/news/economy/200612194034.html>
(参照 2023-12-09)

VIETJO「ビンファスト、高級 SUV「プレジデント」発売 販売価格 2140 万円」<https://www.viet-jo.com/news/economy/200908155436.html> (参照 2023-12-09)

VIETJO「ビンファスト、新型電動バイク 2 種を発売」<https://www.viet-jo.com/news/economy/190913164910.html>
(参照 2023-12-09)

VN EXPRESS「VinFast mở website bán xe trực tuyến」<https://vnexpress.net/vinfast-mo-website-ban-xe-truc-tuyen-4224569.html> (参照 2023-12-09)

Seizo Trend「ベトナム EV メーカー「VinFast (ビンファスト)」とは？ 一時テスラ・トヨタの次のワケ」<https://www.sbbbit.jp/article/st/122679> (参照 2023-12-09)

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO75094630W3A001C2TEZ000/#:~:text=【ホーチミン%3D 新田祐司】,7兆ドン広がった> (参照 2023-12-09)

EMIDAS「ベトナム EV ビンファスト、第 3 四半期で 1 万台納車 インドに工場新設へ」<https://emidas-magazine.com/ja/news/09102023-1006> (参照 2023-12-09)

NNA ASIA「ビンF、グループのバッテリー製造会社買収」<https://www.nna.jp/news/2577704> (参照 2023-12-09)

VIETJO「ビン EV タクシー会社、ラオスでサービス開始」<https://www.viet-jo.com/news/economy/231109185046.html> (参照 2023-12-09)

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。